

◇ 国 語

国 6-1～国 6-19 まで 19 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

私は大阪で生れ、大阪で小説を書きはじめ、のち兵庫県へ移ったけれども、やはり大阪近郊の町で暮し、そこでやっぱり小説を書いて暮している。

その小説は、といえば、(まあ、偉い人の評伝も書くが) つねに市井しせいの(張三李四)、——(二)熊公八公の物語である。

偉人も達人も、文豪・色豪も出てこない。

^a驚天動地の社会的事件もない。フツの男や女、フツの事件……ではあるものの、たとえば愛しているものの心変わり、愛想づかしを聞いたりしたら、それを予想も(せえへんかった)(しなかった、の大阪弁)人間にとっては、まさに驚天動地の大事事件であろう。

しかり。

人生には、驚天動地の事件は毎日のように起るのだ。……と、そういうことをいいたくて、私は、

〈平凡ただごと至極〉

の小説を書き続けている。

それで四十年経たってしまった。……

いや、そういうことに感動しているわけではない。私は、私の小説に、ズーっと、大阪弁をつかう老若男女を登場させてきた。私の亡夫はわりに性、本来、諧かいまぐ謔まぐを好み、平常の会話も気取らぬ大阪弁(神戸弁が少しまじる)であったが、気取ってしゃべってるぞ、と知らせたいときは、〈ぼかアね……〉

と前を振る。(僕はね)を東京人ふうふうに発音したものを、慣れた人は、それだけで笑いころげていた。ふだん語は、

〈ワシなア……〉

であり、それ以上の丁寧語はべつにない。

(そういう言葉をクシAせねばならぬような事態におちいらぬよう、巧妙に避ける技(B)に長けている男であった。ワ・タ・ク・シなどといわされるくらいなら、

〈死んだほうがマシや〉

と、言いかねない奴やつであった)

私の小説で、東京が舞台になることはないから、おのずと登場人物も大阪弁である。しかし大阪弁というのも、品という点でいえばピンからキリまであり、それは大阪ネイティブの人が聞いてこそわかるが、他国のものには全然、不明であろう。従って、テレビやラジオ、その他のお芝居で、〈良ええ衆し〉の奥さん、お嬢さん、という設定の女性たちが、荒っぽい大阪弁を使ったりすると、大阪人はせつなく、やるせない思いをする。

現代ではもはや、船場言葉というものも、(廃れたとはいわないが)かなりパワーが弱くなり、〈これがいちばん品の良ええ大阪弁や!〉という見本は耳にし難くなった。しかし、中流・下流、ともに、おのずからなる敬語は残っている。(敬語は文化である)

最も簡便な大阪弁の敬語は、『大阪弁おもしろ草子』にある如く、動詞に〈はる〉をくつつけるものである。

行く、という動詞を敬語で使いたいときは、〈行きはる〉になり、寝ている、という語を敬語でいえば、〈寝てはる〉、〈言いはる〉〈見てはる〉

となり、しごく簡便である。簡便だが、その使い方に、決してソロウロウがあつてはならない。

何しろ大阪は商人のまちである。あきないは敬語に始まり、敬語に終る。

〈これでどうでつか〉と算盤の珠を弾いてみせると、客は、

〈こない、しとけ〉

と珠を一つ動かす。

〈そんな殺生ころなこと、言いなはんな、ウチもめし、食わんならん。これで一つ、頼たのまっさ〉

とまた珠を動かすが、〃言いなはんな〃、頼たのまっさ〃と、丁寧語でコウボウセン、買手はなおも珠一つにこだわりの

めし食われへんかったら、水、飲まんかい。これにせえ、ちゅうねん!〉

〈そら、かなわん、いやー、せめてカユくらいは食わしとくなはれ〉

双方、あはあはと笑いつつ、珠一つ上げ下げの商談、切羽つまった戦いの最中でも、大阪商人は笑いと敬語が体臭のように身

に沁みついている。私が金物問屋に勤めていた戦後二、三年のころ、家庭用金物は飛ぶように売れ、一貨車、二貨車の商いもあった時代。戦前からの商人たちが生き残っており、触れば血の出るようなイキのいい大阪弁が聞かれた。しかし最近はどうであろうか。大阪の商売人の伝統的な挨拶は、昔から、

〈どないでつか〉

と景気の近況を問われたら、(じようとうもんぐ)常套文句は、

〈もう、グリコの看板でんねん〉

であったが。

そのころは〈お手上げ〉である。そこで双方笑いで終るが、中には突つ込む奴もいる。

〈グリコの看板やったら、まだ足が地についてまっしやん。ウチは両足もあがつてま〉

〈ほんなら転倒こけまっしやないか〉

〈こけてまんねん。こけつぷりがええ、いうて、ほめてくれはる人もおりまシね〉

〈笑う元気もおまへんワ〉

なんて ア を叩き合ったり、していたものだ。——まあ、現代大阪人にも、その血は流れているであろう。

私はその大阪及び大阪人、また、その根源にある大阪弁の親和力を訴えたくて、〈大阪弁〉に関するエッセーを数多く書いた。つまり、大阪及び大阪弁の〈面魂〉を書きたかったのだ。

というのも、終戦前までの大阪には旧幕時代のみやびやかな風合が残っていたが、終戦時の混乱でその伝統が一部崩れ、そこへ小説やテレビ・映画で面白おかしく〈大阪のえげつなさ〉を言い囃すのが一時、流行した。えげつない大阪人が電波や銀幕に登場し、それは戦後の躁狂状態と イ 効果をもたらして、すっかり大阪のイメージを塗りかえてしまったのであった。

この、〈えげつない〉という大阪弁については、牧村史陽さんの『大阪ことば事典』にねんごろな説明があるが、これを以てしても、

「ちよつと標準語には訳すことのできぬ大阪独特のエゲツナイ言葉だといつてよい」

とある。『大阪ことば事典』によれば、

「濃厚な・辛辣な・酷烈不快な場合などに用いる形容詞」

とあり、「たとえば」と例があげられている。

「あいつ、エゲツナイやつちゃ」

という意味は、かなり多角的である、と。けちんぼで、金に汚い人間とか、「高利をむさぼる食欲なおやじ、年増の女の厚化粧も、助平爺も、みなこの中に含まれる」と。

エゲツナイ料理は、たとえば「脂っこいばかりで、まずい料理」であるとか、

「そんなエゲツナイこと、人前で言うもんやない」とたしなめるのは、低劣な猥談などに対するハイセキであり、

「そないにエゲツノオ言わんかてええやないか」という反抗のこころは、「そんなに、こつぴどく、ずけずけと言わなくてもよいではないか」という抗議の意味をもっている、と。

つまり「エゲツナイ」は、普通の常識人なら「顔がさすような」(恥ずかしくてどうてい、なし得ない)

ウ な言動、

発想を謂うものである。正統的従来タイプの大阪商人に代って、恥を恥とも思わず、利を追うに急なタイプの戦後派人間を面白おかしく嘲す、という風潮が世の中を席捲した。そういうタイプの人間に大阪人が擬せられ、大阪及び、大阪人といえ、みな功利主義、儲けることしか念頭にない無残な人種である、という悪いイメージが植えつけられてしまった。

さきの「グリコの看板」問答のような、暢達な風合こそ昔風の大阪人らしかったのであるが。……

大阪人も大阪も皆が皆、決して利ばかりを逐うに急な、守銭奴ではない。大阪人の守銭奴を描くのも、小説の仕事の一部ではあるが、しかし「大阪弁」の中には、

「曰く、いい難し」

というような、ガanchク深い人生の知恵、あるいは人間の叡知がつまっている。

(田辺聖子『われにやさしき 人多かりき』による)

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。

A ク|シ

- ①ク|ドクを施す
- ③害虫のク|ジヨ
- ⑤聖霊のク|モツ

- ②ク|ニクの策
- ④桃のセツク

1

B ソ|ロウ

- ①書類のイ|ロウ
- ③漢詩のロウ|エイ
- ⑤ト|ロウに終わる

- ②村のコ|ロウ
- ④ヒョウ|ロウが尽きる

2

C コウ|ボウセン

- ①キン|コウを保つ
- ③内閣をコウ|テツする
- ⑤コウ|キュウの平和

- ②哲学をセン|コウする
- ④手足がコウ|チョコクする

3

D ハイ|セキ

- ①道義のハイ|タイ
- ③二律ハイ|ハン
- ⑤大使をハイ|メイする

- ②ハイ|タ的な態度
- ④敵はハイ|ソウした

4

E ガン|チク

- ①チク|イチ報告する
- ③バク|チクを鳴らす
- ⑤堤防をチク|ゾウする

- ②カ|チクを飼う
- ④震災のためにビ|チクする

5

問二 空欄 ア・イ・ウ に入る最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

- ① 為口
- ② 悪口
- ③ 蔭口
- ④ 軽口

6

イ

- ① 逆
- ② 比例
- ③ 相乗
- ④ 依存

7

ウ

- ① 慇懃無礼
- ② 厚顔無恥
- ③ 荒唐無稽
- ④ 支離滅裂

8

問三 傍線部 (a)・(b)・(c)・(d) の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) 驚天動地

- ① ドラマチックなことをいう
- ② 驚くほど感動的なことをいう
- ③ 悲惨きわまりないことをいう
- ④ 世間を大いに驚かせることをいう

9

(b) 長けている

- ① 長所であることをいう
- ② 自信があることをいう
- ③ すぐれていることをいう
- ④ 長年続けていることをいう

10

(c) 殺生なこと

- ① 残忍なこと
- ② 皮肉なこと

11

③ 思いやりがないこと

④ 生きた心地もしないこと

(d) 常套文句

① 殺し文句

② 歌い文句

③ だまし文句

④ きまり文句

問四 傍線部(一)「熊公八公の物語」とあるが、どのような物語をいうのか、その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

13

① 「熊公八公」は江戸時代によく読まれた町人物語の主人公で、長く時代を超えて人々に読み継がれる物語のこと。

② 「熊公八公」は庶民の代表として落語に出てくる人物で、平凡で身近な人間を主人公にした物語のこと。

③ 「公」は「秀吉公」等の尊称の意味で、身分よりも庶民として人生を楽しむことを大事にする物語のこと。

④ 「熊公」と「八公」は落語によく登場する慌て者のコンビ名で、庶民を主人公にした笑える面白い物語のこと。

12

問五 傍線部(二)「グリコの看板問答のような、暢達な風合」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

14

- ①グリコの看板は大阪での商談には欠かせない話題として、様々な場面で意思の疎通をスムーズにするために役立つという。
- ②グリコの看板に関する質問をするように、一見、商売とは無関係な雑談によって商談が成立することをいう。
- ③大阪商人は、グリコの看板を比喻として商談に持ち出すようなのびのびとした感覚を大事にしていることをいう。
- ④大阪では、グリコの看板のような町の名物についての知識の有無が、取引を左右する風向きを決めてしまうことをいう。

問六 本文の趣旨に合致するものを、次の①～④の中から一つ選んでマークしなさい。

15

- ①筆者が好んで大阪弁を用いて文章を書くのは、大阪人と大阪弁の持つ強烈な個性を全国的に知らしめたいからである。
- ②大阪弁は、面白さに重点を置く、親しい人間関係を作るための言葉であるので、いわゆる丁寧語や敬語はあまり発達していない。
- ③筆者は大阪と大阪人の特質を「えげつない」という言葉によって端的に言うようになってしまった風潮を「エゲツノオ言わんかて…」と書いている。
- ④大阪弁は、本来は船場言葉のような上品な言葉であったのが、テレビ等のメディアにより下品な一面が強調されて広まってしまったのである。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

対面的状況、組織、集団といったいろいろな単位の間関係を考えるときに、「ルール関係」と、「フィーリング共有関係」に分けて考えると、お互いどういう距離をとれば心地よいのが、考えやすくなると思います。

「ルール関係」というのは、他者と共存していくときに、お互いに最低守らなければならないルールを基本に成立する関係です。じつは学校もクラスも、むしろそういうルール関係を基本に考えなければならない場になっているのだと思います。

さきに述べた、共同体的なつながりが強いときの「友だち百人できるかな」的な関係が前提としているのは、「フィーリング共有関係」なのです。とにかくフィーリングを一緒にして、同じようなノリで同じように頑張ろうと。それがクラス運営の核になつていたのが、これまでの学級や学校の考え方でした。「僕たちは同じように考えているし、同じ価値観を共有して、同じことで泣いたり笑ったりする、結びつきの強い全体だよ」という感じですよ。

でもいまの学校という場合は、もうそうしたフィーリング共有性だけに頼るわけにはいかない。「ルール関係」をきちんと立ち立ててちゃんとお互いに守るべき範囲を定めて、「こういうことをやってはいけないんだ」という形で、現実社会と同じようにルールの共有によって、関係を成立させなければならない場になっているのだと思います。

いじめという行為は、人と人との関係の基本に照らしてみても明らかにルール違反なわけです。ですから、ルールに反することはしてはいけないということ徹底していく、ア「ルール関係」をベースにして、先生は裁定を下していかなくてはなりません。ここに「みんな仲良く」という「フィーリング共有関係」だけを持ち込んでもうまくいかないのです。いじめを受けている人は、一人で悩んでいないで、もし仮にクラス担任の先生がだめでも、ルールを基準に判断してあなたの立場を理解してくれる大人はどこかに必ずいるはずですよ。決して絶望しないでください。

ルール関係の土台が築けている上で、「フィーリング共有関係」も得られるのであれば、これはラッキーで幸せなことですよ。逆にいえば学校はもはや、フィーリング共有関係がそうたやすく実現できる場ではなくなってきたのだということです。

これは後ろ向きで、悲観的な考え方なのでは決してありません。むしろ逆です。(略)「みんな仲良くしなければならぬ」という共同性のジューバクのような考え方は、「フィーリング共有関係」だけを前提に考えるからそうなるのです。実際は自分とは

合わない人たちがいるのに「みんなと仲良くしなければ」と思い込みすぎて、かえって苦しくなるのです。「ルール関係」を前提に考えれば、仲が良くても仲が良くななくても、とりあえずお互いが平和に共存することができるのです。

そんなふうに発想を転換していくべきだと思います。

イ 仕事場などに、「フィーリング共有関係」だけ持ち込んでもダメなことは明白ですね。やはり仕事場というのは何か業績を上げるための目的集団ですし、そこには組織ごとのルールがあります。そういうルールにのっとってコミュニケーションがなされています。でもルールが共有されているだけの関係ではなんとなくギスギスしてしまつて、仕事のノウリツも上がらない。フィーリングの共有性が高まつたほうが、組織としても活性化します。

そのための工夫ももちろんいろいろあつていいのだけれども、基本的にはルール共有関係が成立しないところにフィーリング共有性だけを求めても、土台無理な話だと思います。

この二つは重なるようだけれども、原理的には区別して考えなくてはなりません。これをごった煮のように一緒に考えてしまうと、ぐちゃぐちゃになってしまうのです。

どんなに気の合わない部下や上司でも、ある程度は距離感をもつて、上司である限り部下である限りは関わらなければならぬし、お互い一緒に仕事をしていかなければならないわけです。それを「あいつはなんとなく気に入らないからあいつにだけは仕事をまわさない」とか「あいつと同じブシヨ」にいるのはいやだ」となつてしまうと、ぐちゃぐちゃになってしまうわけです。フィーリング共有関係というのは、プラスだけではなくてマイナスの感情も含まれてきますから。

「ルール関係」と「フィーリング共有関係」を区別して考え、使い分けができるようになること。これが、「大人になる」ということにとっての、一つの大切な課題だと思います。

高校生くらいから少しずつこの二つの違いを意識しながら、二十歳を過ぎるくらいからは「いま・ここ」でのつながりはどちらの関係をより優先すべきなのだろう」といったことが、状況に応じて判断できるようになれば、より大人に近づいたといえるのではないのでしょうか。

「ルールが大切だ」ということを述べると、必ずある角度のついた解釈をされてしまいます。つまり、「倫理的にコントロールする」「規範的価値観を共有させる」など、「管理の強化」みたいな方向に誤解されるのです。規範意識を高めるといった表現で

言い換えられると、妙に道徳的なギョウギ¹⁾の良い子どもを育てようといった主張のように理解されることもあるかもしれませんが、ルールを大切に考えるという発想は、規則を増やしたり、自由の幅を少なくする方向にどうしても考えられてしまうのですが、私が言いたいことはそういうことではありません。むしろ、全く逆なのです。

ルールというものは、できるだけ多くの人にできるだけ多くの自由を保障するために必要なものなのです。

なるべく多くの人が、(甲) の自由を得られる目的で設定されるのがルールです。ルールというのは、「これを、守れば、あとは自由」というように、「自由」とワンセットになっているのです。

逆にいえば、自由はルールがないところでは成立しません。

「何でも好き勝手にやっつけていい」ということが自由だとしたら、無茶苦茶なことになってしまいます。人間というものは総じて自分の利益を最優先する傾向があるわけですが、「自分の利益のことしか考えない力の強い人」が一人いたら、複数の人間からなる社会における自由はもうアウトになります。この場合、誰か一人だけが自由で、残りの人はみんな不自由ということになりかねません。ルールの共有性があるからこそ、自由というものが成り立つのです。

ホッブスの「社会契約論」を思い起こしてみてください。

人間が生きるということの本質は自由であり、欲望の実現です。ルールとは、それぞれの人々が欲望を実現するために最低必要ツールなのです。

欲望は、百パーセントは実現できないかもしれない。

ウ

たとえば一割、二割、自分の自由を我慢して、対等な立場

からルールを守ることでは、社会のメンバー全員が自由を実現することはできないのです。そうすることによって、残りほとんどの欲望は保障されます。でもルールというものの本質がそういうものだとすることは、なかなか了解されにくいのです。たとえば交通規則を思い出してください。どんなに急いでいても前の信号が赤ならば必ず止まる。一見すると「早く目的地に着きたい」という欲望は制限されていますが、そうした欲望を多少抑制することによって、誰もが安全に確実に、事故に合うよりはずっと早く目的地にたどりつくことができるのです。

そして「秩序性」というものは、(乙) のルールをお互いが守ることの中から、結果として出てくるものです。秩序正しさそのものを目的にすると、人びとはより多くの自由をがまんしなければならなくなり、息苦しさが増してしまいます。

社会のルールで何が一番大事かということは、いろいろな社会によって微妙に違ってくるかもしれませんが、でも、どんな社会にでも大体共通して大事に考えられているルールがあります。それは、「盗むな、殺すな」という原則です。

これは、社会のメンバーそれぞれの生命と財産をお互いに尊重するというルールになっているわけです。

どういふことかという、自分の気分しだいで勝手に人を殺していいということになると、今度は自分がいつ殺されるかわからないということにもなりうるわけです。ですから、「殺すな」は結局自分が安全に生き延びるという生命の自己保存のためのルールと考えられるわけで、別に世のため人のためのルールと考える必要はないのです。

「盗むな」もそうです。盗んでもいいという社会では、自分の持物・財産がいつ盗まれるかわからない。「殺すな」が守られない場合と同様、とても不安定な状況になってしまう。

「エ」、「盗むな、殺すな」という社会のメンバーが最低限守るべきであると考えられているルールは、「よほどのことがない限り、むやみにキガイを加えたりせず、私的なテリトリーや財産は尊重しあいましょう、お互いのためにね」という契約なのです。

こうした観点から「いじめ」の問題をあらためて考え直してみると、誰かをいじめるといふことは、今度は自分がいつやられるかわからないという、リスクな状況を、自分自身で作っていることになります。

いじめるか、いじめられるかを分けているのは、単にその時々々の力関係によるもので、いつ逆転するかわかりません。

無意味に人を精神的、身体的にダメージを与えないようにすることは、自分の身を守る、自分自身が安心して生活できることに直結しているのです。

単に「いじめはよくない、卑怯なことなんだよ」「みんな仲良く」という規範意識だけではいじめはなくなりません。そうではなくて、「自分の身の安全を守るために、他者の身の安全をも守る」という、**実利主義**的な考え方も、ある程度学校にも導入した方がよいのではないかと思います。

人類の歴史を見ても、「自然状態」ではどうしても人間は物理的に力のあるほうが「殺し、盗む」ものであり、そうした状態が長く続くと世の中が安定せず総崩れになるからどうしたらいいかを、賢人たちが長年考えてきたわけです。そして出した結論が、「人を殺さない、人から盗まない」というルールは、「人に殺されない、人から盗まれない」ことを保障するために必要なものだ」という答えだったわけです。

③ 残念ながら、「殺し、盗むことは人としてよくないことだから」という答えではないのです。

そもそも、クラス全員が仲良くできる、全員が気の合う仲間どうしであるということは、現実的に不可能に近いことです。人間ですから、どうしてもお互い馬が合わない人、理屈ぬきに気に障る人というのはいます。大人だって、ほとんどの人は何かしら人間関係の悩みを持っています。

そんなとき、ムカツクからといって攻撃すれば、ますますストレス過剰な環境を作り、自分のリスクも大きくすることになるのです。

だからこそ（略）「並存性」という考え方が大事なのです。ちょっとムカツクなと思ったら、お互いの存在を見ないようにするとか、同じ空間にいてもなるべくお互い距離を置くということしかないと思います。

ただし、露骨に「シカト」の態度を誇示するのも、攻撃と同じ意味を帯びてしまうことになります。朝、廊下や教室で会って目があったりしたら、最低限の「あいさつ」だけは欠かさないようにしましょう。あくまでも自然に「敬遠」するということつもりでやってください。

要は、「親しさか、敵対か」の二者択一ではなく、態度保留という真ん中の道を選ぶということです。

たとえばサバンナの泉のほとりに、たくさんの種類の動物が、おたがい無関心な様子で同じ空間を平和に共有している姿を、テレビなどで見たことがあるでしょう。フラミンゴやシマウマが、「われ関せず」という感じで一緒に水を飲んでいたりします。あんな光景を思い浮かべると「並存性」がイメージしやすいかと思えます。

（菅野仁『友だち幻想 人と人の（つながり）を考える』による）

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A ジュバク

- ① 自縄ジバクの状態に陥る
- ② タイマーでジバクする装置
- ③ 仲間内でもトバク行為は違法だ
- ④ 明治維新のトウバク派を名乗る
- ⑤ コウバクたる草原を見下ろす丘

16

B ノウリツ

- ① 人間関係にクノウする
- ② 葉のコウノウ書を読む
- ③ 思い出がノウリに浮かぶ
- ④ 家賃をタイノウする
- ⑤ ノウコウの開始を示す出土品

17

C ブシヨ

- ① シヨム課に配属される
- ② シヨハンの事情により延期する
- ③ シヨセイ術に長けた人
- ④ 反対のシヨメイ活動に加わる
- ⑤ シヨシン忘るべからず

18

D ギョウギ

- ① 大規模災害のギセイとなる
- ② 身内にベンギをはかる
- ③ 一宿一飯のオンギ
- ④ 紙幣を巧妙にギゾウする
- ⑤ 結婚式にシユウギを贈る

19

E キガイ

- ① 事実は小説よりキナリ
- ② ジョウキを逸した振る舞い
- ③ この計画ではキジヨウの空論だ
- ④ 人生のキロに立ちすくむ
- ⑤ キキュウ存亡の時を救う

20

問二 空欄 ・ ・ ・ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。

- ① いっぱう
- ② とはいえ
- ③ 逆に
- ④ つまり
- ⑤ ただし

- ① たとえば
- ② なぜなら
- ③ ですから
- ④ しかし
- ⑤ そのうえ

- ① しかし
- ② したがって
- ③ とりわけ
- ④ すなわち
- ⑤ または

- ① そして
- ② だから
- ③ そのうえで
- ④ しかし
- ⑤ ところで

問三 傍線部 (a)・(b) の本文における意味に最も近いものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) 原理的

① 教条的

② 論理的

③ 根本的

25

④ 合理的

⑤ 物理的

(b) 実利主義

① 社会主義

② 功利主義

③ 自由主義

26

④ 営利主義

⑤ 原理主義

問四 空欄 (甲)・(乙) に入れることばの組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

(甲) | (乙)

① (無限) | (最低限)

② (最低限) | (最大限)

③ (最低限) | (最低限)

④ (最大限) | (無限)

⑤ (最大限) | (最低限)

27

問五 傍線部(一)「基本的にはルール共有関係が成立しないところにフィーリング共有性を求めても、土台無理な話だと思えます」について、筆者はなぜそのように考えるのか。理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

28

- ①ルールが共有されているだけの関係ではギスギスしてしまうため、組織の活動を円滑に行うにはフィーリング共有性なしのコミュニケーションは考えられないから。
- ②ルール共有関係が成立しない場合、そもそもお互いが平和に共存することができないため、「みんな仲良く」というフィーリング共有関係が成立するはずがないから。
- ③「みんな仲良くする」という組織のルールを守るルール共有関係が成立していれば、お互いにフィーリング共有関係を取り結ぶことは容易であると考えられるから。
- ④ルール共有関係とフィーリング共有関係とは原理的に区別する必要があるがあっても実際は重なるところが大きく、どちらかを求めること自体、意味のないことであるから。

問六 傍線部(二)「自由はルールがないところでは成立しません」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

29

- ①自由は力の強弱によらず誰もが手にする権利を持つが、この自由を享受する権利は憲法に代表されるルールによって定められているのであって、それなしでは権利も保障されないということ。
- ②「何でも好き勝手にやっつていい」というのは当然の自由ではなく、誰もが一割、二割の自由を我慢してルールを守ることによって初めて、自由を享受する有難さが実感できるということ。
- ③人はみな自分の欲望の実現を優先的に求めるため、誰もが対等な立場から欲望を制限されるルールがなければ、一握りの強者以外ほとんどの人々の自由は保障されなくなるということ。
- ④人間は総じて自分の利益を最優先する傾向があるため、自分自身の自由を第一に保障しようとするれば、まず他者をルールによって制限し、欲望実現を阻止することが不可欠だということ。

問七 傍線部(三)「残念ながら、「殺し、盗むことは人としてよくないことだから」という答えではないのです」とあるが、そのような答えではないことがなぜ「残念」なのか。理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

30

①多くの社会に共通する「殺すな、盗むな」という原則は、フィーリング共有的な倫理観に基づく規範意識によるものと思われるが、実際にはルール共有的な考えに基づいて互いの安全を保障することにより、社会の安定という実利をとった結果であるから。

②「殺すな、盗むな」という原則はどんな社会でも大体共通しているため人間の倫理観の基盤となるもののように考えられているが、実際には単に社会の安定のためのルールなのであって、人間にとって倫理的動物として生きることが土台無理だと確定してしまうから。

③多くの社会に共通する「殺すな、盗むな」という原則が実利主義的な考えに基づくものだということは、「殺し、盗むことは人としてよくないことだ」という人間の規範意識そのものが否定され、ひいてはそれらの行為が倫理的にも是認されてしまうことになるから。

④どんな社会にも大体共通する「殺すな、盗むな」という重要な原則がそもそもルール共有的な考えに基づいたものであるとなると、フィーリング共有的な倫理観は人間社会にとって価値がないことになり、コミュニケーションがギスギスしたも
のになってしまうから。

問八 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

31

- ①人間関係においては「ルール共有関係」を築くことが重要であるため、規範意識を高め、価値観を組織内でしっかり共有できるように管理する必要がある。
- ②現在の学校という場がルールを守ることにしづられ、「みんな仲良く」というフィーリング共有関係の実現がもはや困難になっっているのは残念なことである。
- ③仕事上の関係においてもフィーリング共有は重要であるため、気の合わない相手であれば一緒に仕事を行う方法に差が出てくることは仕方ないことである。
- ④クラス全員が仲良くすることは現実的に不可能であるが、気に障る相手には無関心の態度を誇示し、距離を置きながら「並存」することが重要である。
- ⑤社会のルールは自己の安全保障を目的とするという観点から考えると、誰かをいじめるといことは自身がいじめられるリスクを自ら作っていることになる。